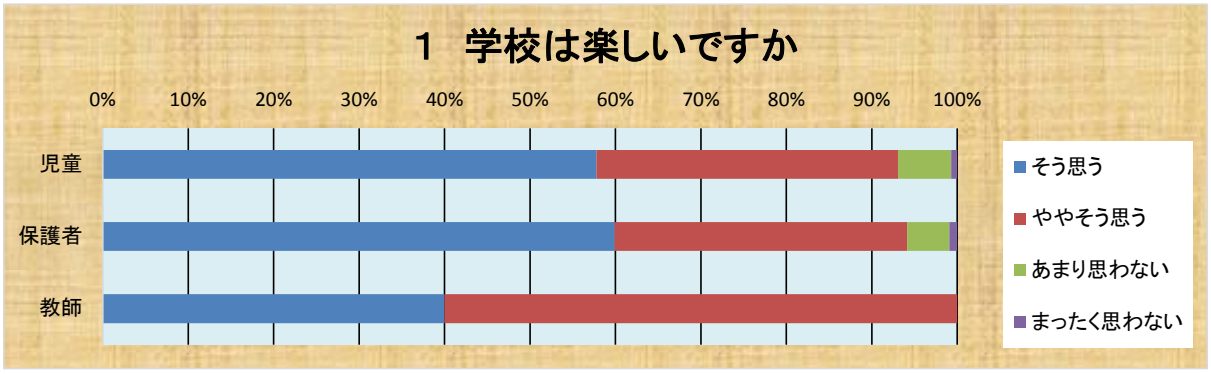
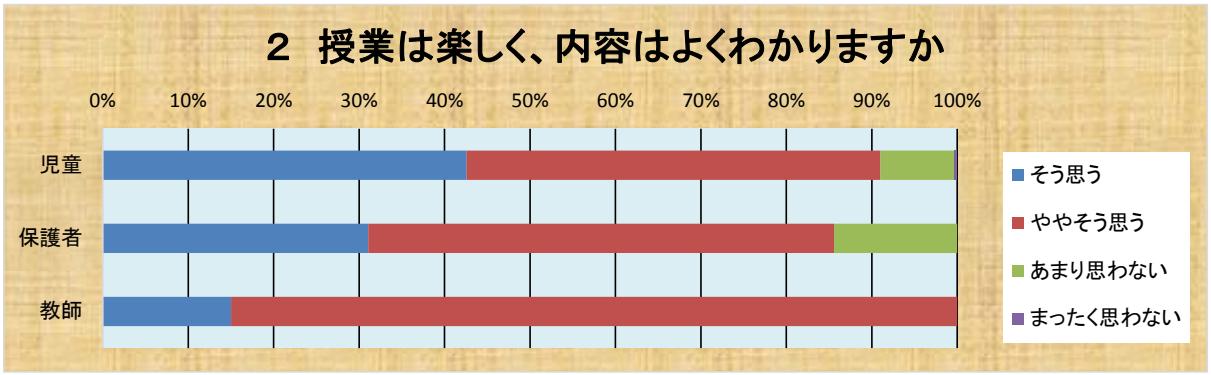
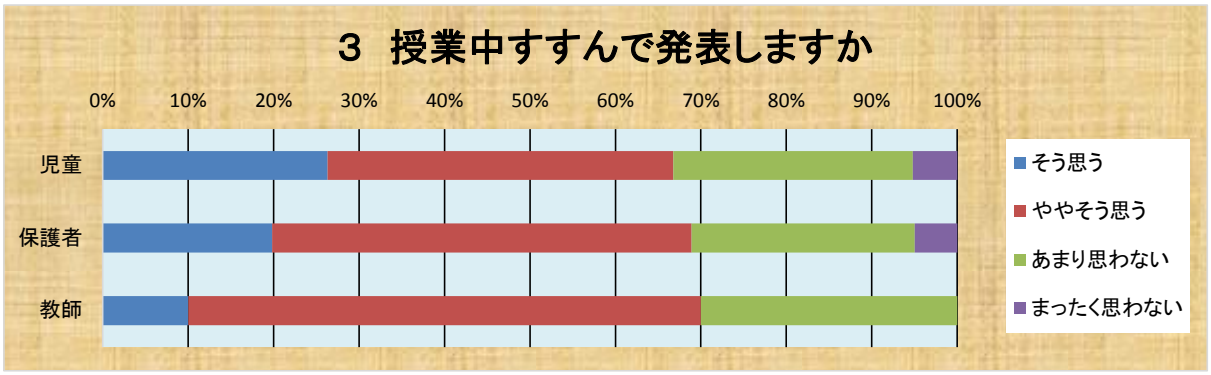
「学校評価・教育活動等に関するアンケート」保護者・児童・教師比較結果



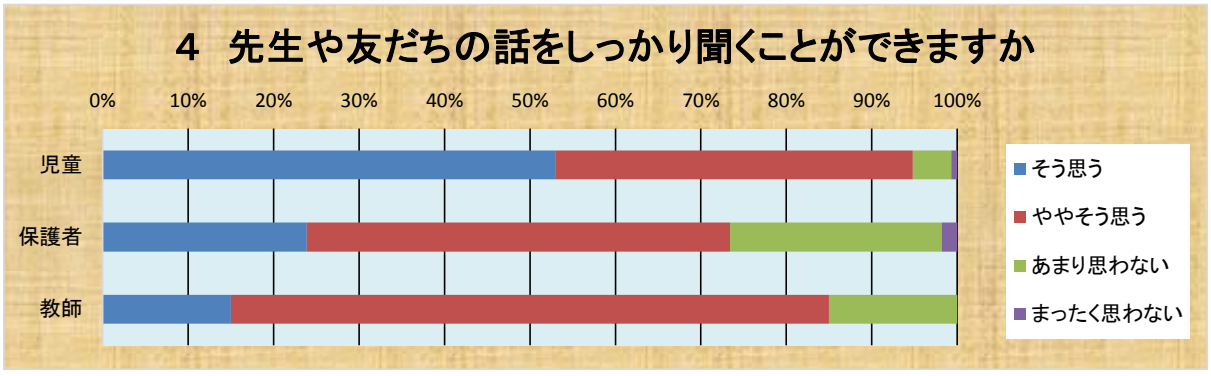
設問1「学校は楽しいか」に対して「そう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答が保護者、児童、教師ともに9割を超えている。学校が楽しいと感じる要因には様々なことが考えられるが、これからも、わかる・楽しい授業づくり、学校行事などの充実を進め、すべての児童が楽しく感じる学校にしていきたい。



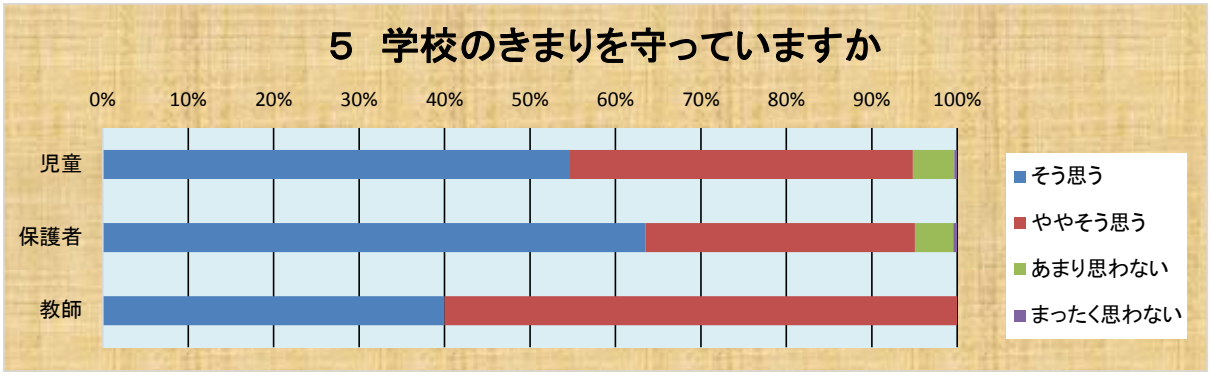
設問2「授業は楽しく、内容はよくわかるか」に対しては、保護者、児童の9割近くが良い評価をしている。「あまり思わない」「まったく思わない」では、保護者の回答が約15%を占めている。今後はこのことを真摯に受け止め、教師一人ひとりが今後も研鑽を重ね、授業力を高めつつ、「誰もが楽しい」「わかる」と感じられる授業をめざしたい。



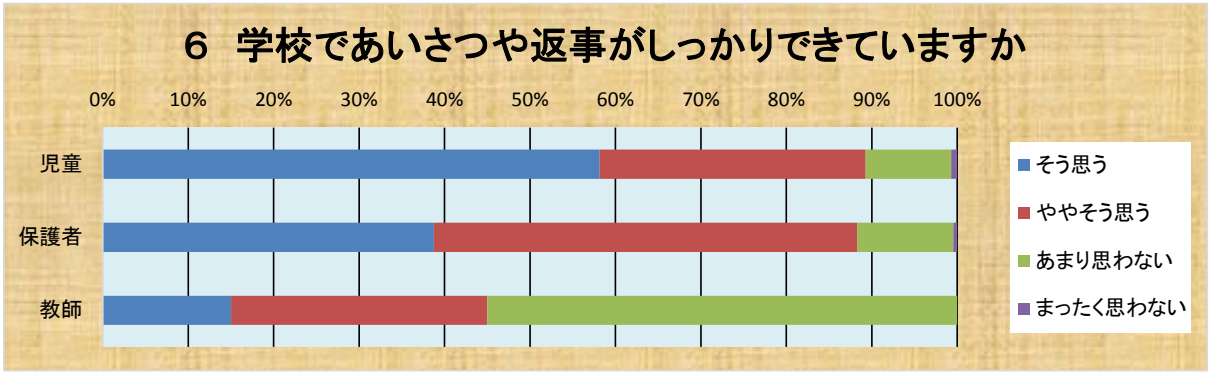
設問3「授業中進んで発表するか」については、保護者、児童ともに3割以上が「あまり思わない」「まったく思わない」と回答している。間違えても恥ずかしくないという学級の雰囲気づくりと児童が「いかに学ぶか」児童を「いかに学ばせるか」などの視点から、授業への参加度を高める工夫を今後もしたい。



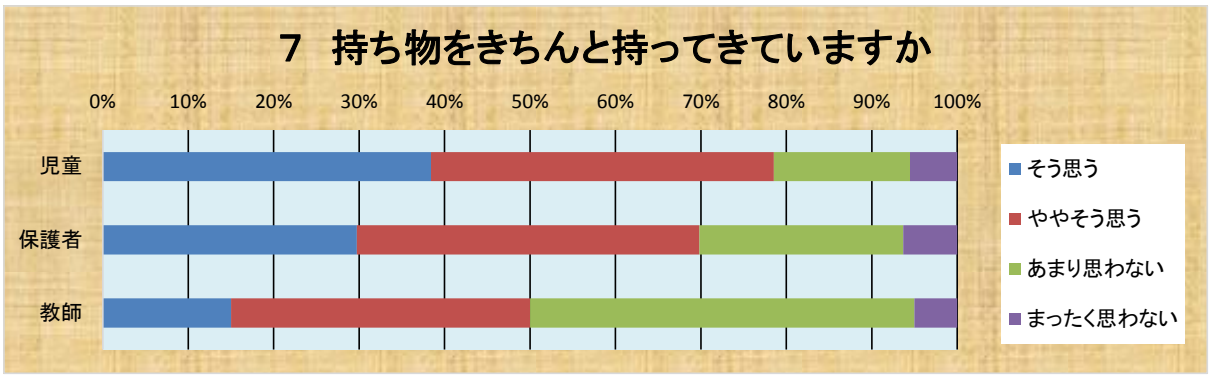
設問4「先生や友達の話をしっかり聞くことができるか」に対しては児童の肯定的な回答が多い。しかし、教師、保護者の側からみると一概にはそうとは言い切れない。これからも学級活動などを通して、相手の話をきちんと聞く姿勢を涵養したい。



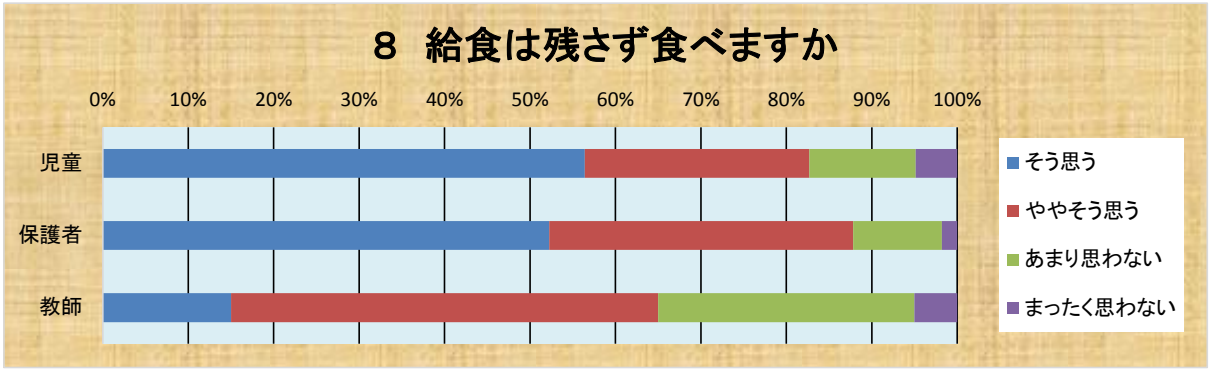
設問5「学校のきまりを守っているか」に対しては保護者、教師ともに肯定的な回答が多い。きまりを守ることの大切さを日頃から児童に投げかけている成果であると感じる。児童の行動を観察し、教師のねばり強い指導を継続していきたい。



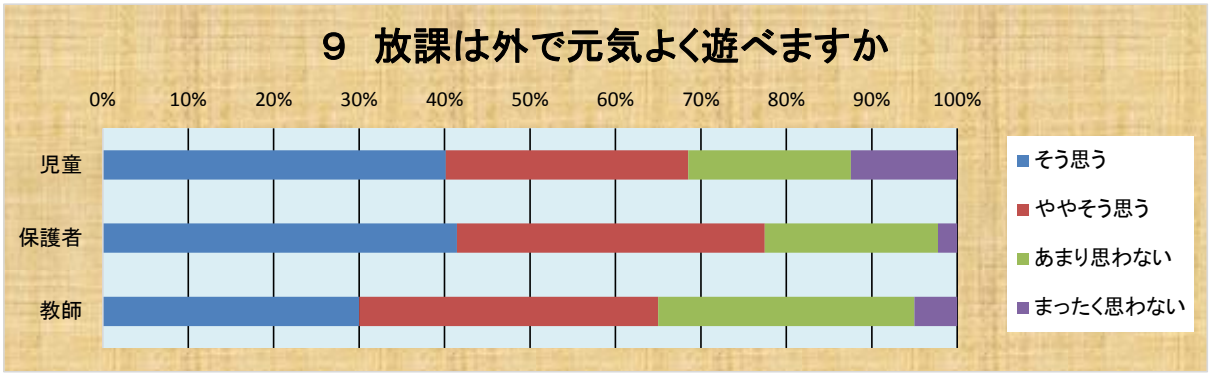
設問6「学校であいさつや返事がしっかりとできているか」は、児童、保護者ともに肯定的な回答が約9割を占める。今後も教師自らが率先してあいさつを行い、各学級においてもその大切さを伝えていきたい。今年度は、PTAのあいさつ運動を木曜日にしたことで、多くの保護者に参加いただき、活気のある元気のよいあいさつをすることができた。



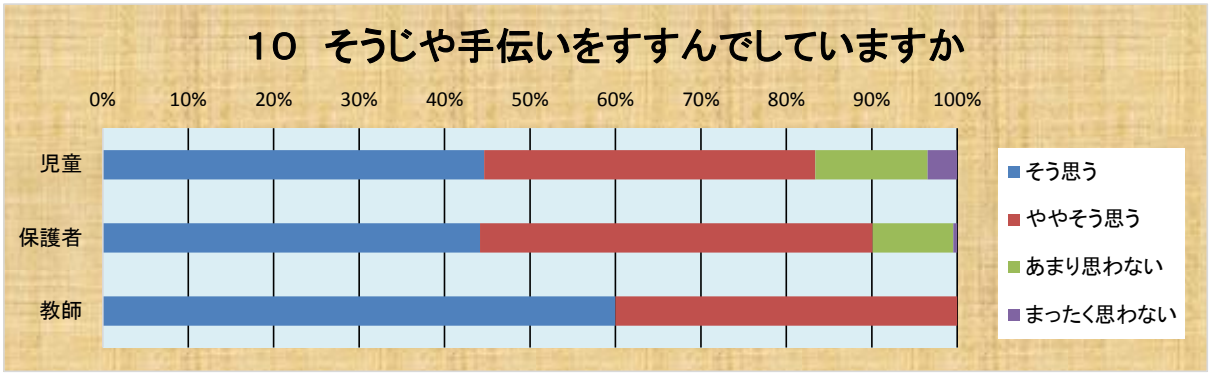
設問7「持ち物（忘れ物）」に関しては教師からの評価が学校生活での実態を表している。忘れ物で学習活動や当番活動に支障をきたすことがないよう、基本的生活習慣が身につく指導を重ねたい。家庭での声かけ、目配りもお願いできたらと思う。



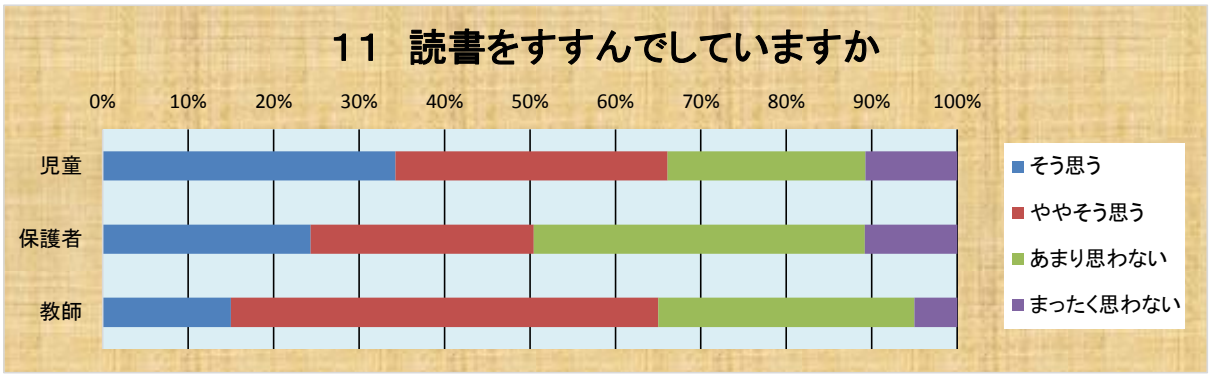
設問8「給食は残さず食べているか」に対しては、児童や保護者は8割以上が肯定的な回答をしている。しかし、教師側の視点に立つと、一概にそうとは言えない。栄養価に富み、偏りのない食事が提供される給食を体調や体質に応じて、残さず食べられるように今後も指導していきたい。



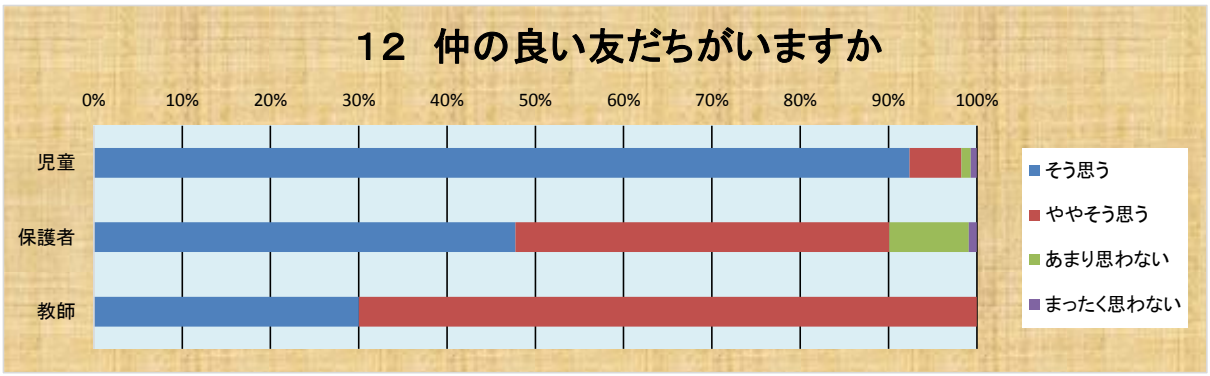
設問9「放課は外で元気よく遊ぶか」については、学年が上がるにつれてポイントが下がる傾向がみられた(低学年91ポイント、高学年51ポイント)。放課や体育時などに思い切り身体を動かすことにより、体力の向上やよりよい生活習慣の形成を家庭と連携してめざしたい。



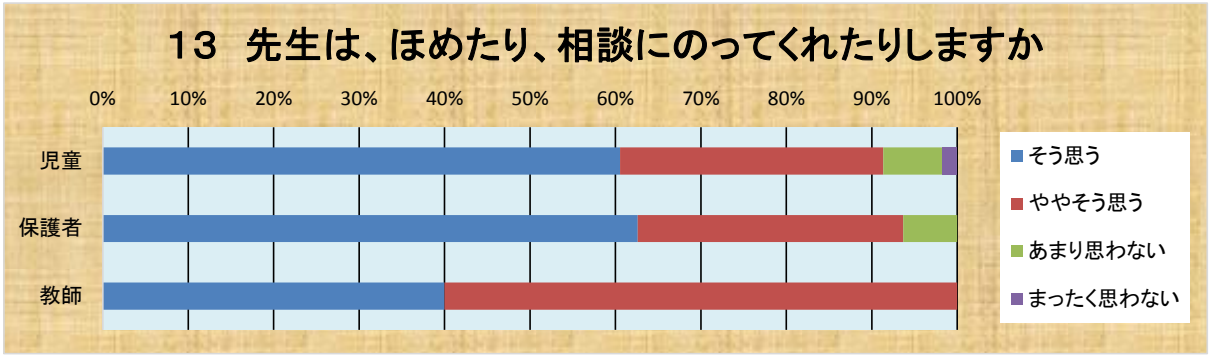
設問10　積極的に働いていないと回答した児童が2割近くいる。校訓にもある勤労を愛する児童の育成を目指し、学校、家庭ともに児童が進んで働く場や機会を数多く設けていきたい。



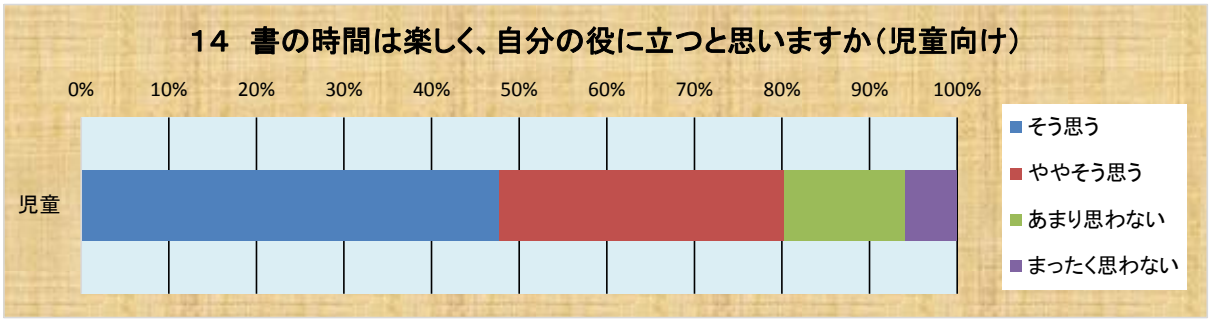
設問11「読書」については、3割強の児童が「読書ばなれ」の状態を表している。また、半数の保護者も読書への取組が疎かになっていると感じている。ゲームやインターネットの普及など様々な環境の変化も要因の一つと考えられるが「読書は心の栄養」を合言葉に、今後も学校においては朝読書や読書週間など、さまざまな啓発活動に継続して取り組みたい。また、家庭においても親子で読書に親しむ時間を作り出していただけたらと思う。



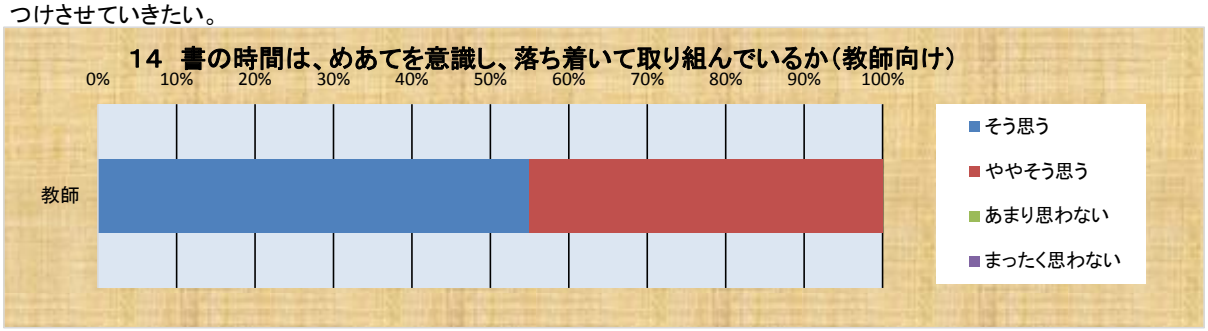
設問12「仲の良い友だちがいるか」については、児童、保護者、教師ともに肯定的な回答が9割を超えている。今後も児童の人間関係の変化に気をつけながら、学級における温かい人間関係づくりや、異学年が交流する活動を継続したい。



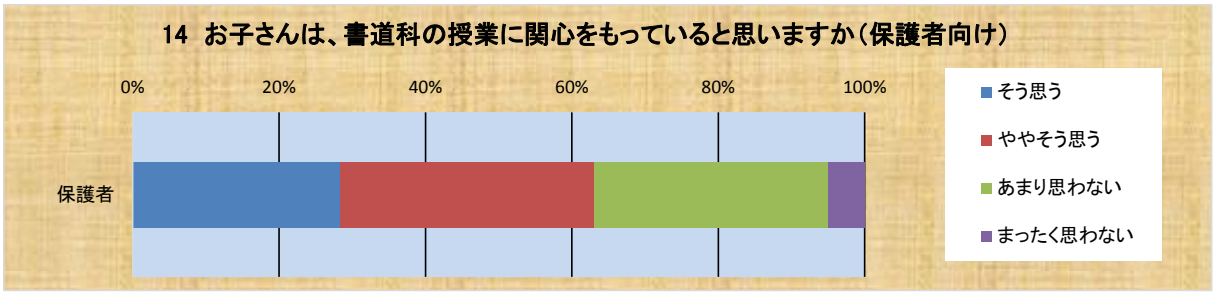
設問13「先生はほめてくれるか」に対しては、肯定的な回答が9割以上と多く、概ね良好な関係といえる。しかしながら、否定的な回答の保護者、児童も少なからずいる。これからも教育相談などの機会や教職員による児童への働きかけを通して、児童と教師の良好な人間関係づくりにより一層努めたい。



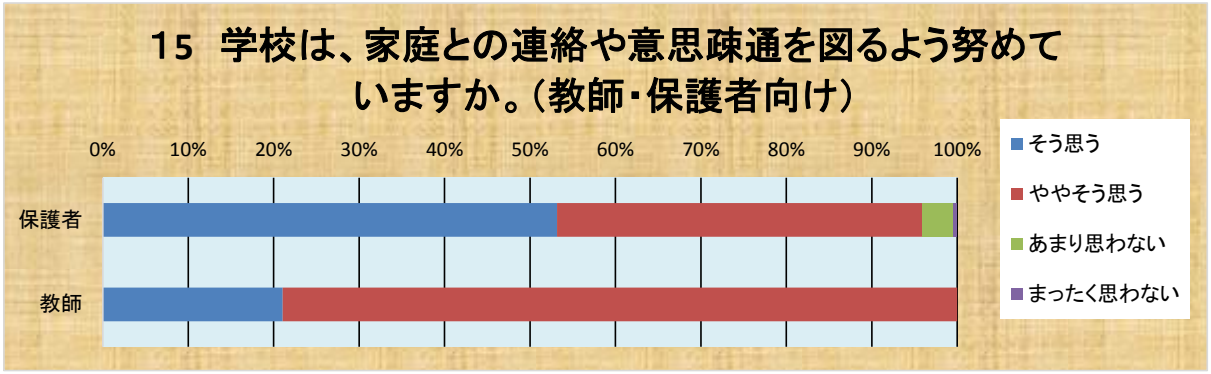
設問14　春日井市が平成28年度からすべての小学校に対して特別な教科として取り組み始めた「書道科」に対しては、2割の児童が書道科の時間の目標を達成していないことがわかる。今後も指導法を工夫改善しながら、楽しく学ばせるとともに、書道のねらいや生活の中での活用法を伝えていきたい。また、授業に取り組む姿勢や集中力も身につけさせていきたい。



設問14　教師の視点から見た「書道科」は、全教師がめあてを提示することを意識して授業展開している。書の良さを児童にふれさせるためにも、心を落ち着かせての指導に努めている。



設問14　保護者の視点から見た「書道科」は、6割の保護者は子どもが関心をもって書の授業を受けていると回答している。しかし、関心をもたずに書の授業を受けていると回答した保護者が4割近く占めることから、これからも書道科の指導を改善していくとともに、授業中の様子や作品などの取組を発信していけたらと思う。



設問15　学校と家庭との連携に関しては、教師は肯定的な回答をしているが、保護者は更なる連携の必要性を感じていることがわかる。今後も児童のために、連絡文書、学校・学年通信、懇談会、ホームページ、H&S等を通じて家庭との連絡・意思疎通を密に図るよう努めていきたい。